富山県立富山中部高等学校

環境DNAを用いたホクリクサンショウウオの生息調査と保護活動

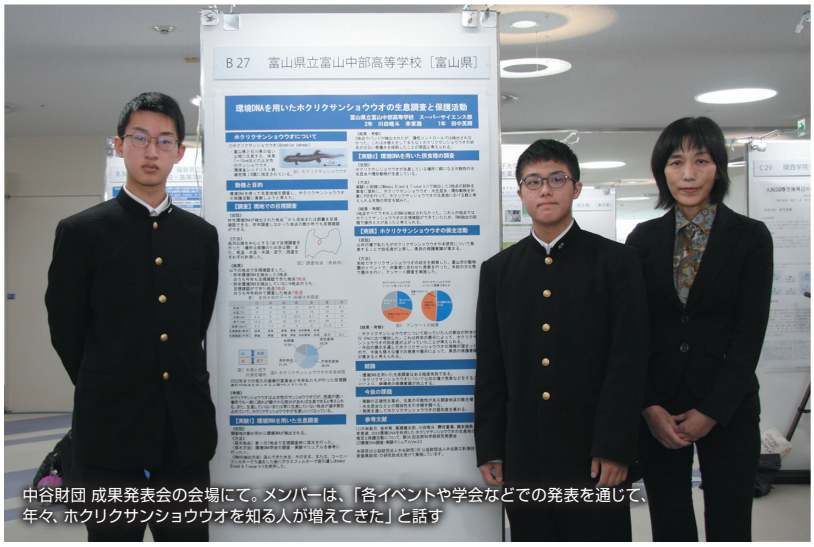
冠雪の立山連峰。校舎からも雄大な景色が望める

地元に生息する絶滅危惧種を守る

“身近な生物好き”たちの研究チーム

富山県立富山中部高等学校のスーパーサイエンス生物部では、環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠB に指定されている両生類ホクリクサンショウウオの研究を行っている。担当の真野佳余教諭曰く、「中心メンバーはみんな筋金入りの生物好き」だが、特に身近な生物への関心が高く、2年の李東澔（りとうこう）さんは「地元に固有の生物で絶滅危惧種がいると知って興味をもちました」と話す。

そんな彼らの活動は生息調査とサンプル採集、そして啓発・保護活動の一環としての研究発表に及ぶ。また、近隣の動物園では水枯れの恐れがある生息地から卵を保護し、陸上生活ができる幼体になるまで地域の学校で飼育して元の場所に返す保全活動を行っており、富山中部高校でも数十～100 匹ほどを飼育していた。



中谷財団 成果発表会の会場にて。メンバーは、「各イベントや学会などでの発表を通じて、年々、ホクリクサンショウウオを知る人が増えてきた」と話す

近隣の動物園のスタッフに同行して行う生息調査

同行した調査で確認した
ホクリクサンショウウオの卵のうと成体

●**実施担当**
真野佳余　教諭

●**活動のモットー**
縁があって本校生物室にいる生き物たち。給餌時の注意深い観察で異変を察知するなど、命を大切にするよう指導している。

生物室で飼育しているホクリクサンショウウオの幼生。餌のアカムシを目の前で揺らしてあげないと食べない

富山県高等学校文化祭にて

学校概要

「鍛錬 自治 信愛」の気風を誇る県内屈指の進学校。2014年度以降、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定。

設　立：1920年
生徒数：716人
所在地：富山市芝園町3丁目1番26

環境DNA調査のリベンジに燃える

放課後は学校周辺でのバッタ採集を日課とし、校内で「バッタの田中」の異名をとる1年の田中英輝（たなかひでき）さんは、「幼生は餌のアカムシを目の前で動かさないと食べないので、給餌には時間がかかって大変です」と飼育の苦労を口にするが、どこか楽しそうだ。

生息調査では動物園の協力のもと産卵確認などを行うが、特に泥中に棲む幼生は見つけにくい。そのため環境 DNA を用いた調査も行い、すでに複数の生息地を特定。現在の研究目的は野生環境における餌の特定へと進んでいるが、2025 年の調査では餌の候補に挙げた水生昆虫や環形動物、さらにはホクリクサンショウウオ自体の DNA も検出できなかった。2 年の川田唯斗（かわたゆいと）さんは「正確に実験することの大切さを痛感した」と悔やむが、「DNA 抽出の段階で誤りがあった可能性がある」と、すでにある程度は原因を特定できており、メンバーは次回調査でのリベンジに燃えていた。

（個別校助成）

この活動は，中谷財団の「科学教育振興助成」により行われています。

公益財団法人 中谷財団　〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階
中谷財団 検索
シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎が私財を投じて設立。BME(Bio Medical Engineering)分野の発展を願い,表彰事業をはじめ各種研究助成,若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに,すそ野拡大のため,小中高校生の科学探究活動に対し助成事業を行っている。2024年に設立40周年を迎え,「中谷財団」に名称を変更した。